



馬酔木通信 39号



2020年3月



INDEX

学長からのメッセージ	2	子育て支援センター	10
トピックス	3	地域・国際連携センター	11
生活未来科	4	留学生の声	12
地域こども学科	5	生活未来科 学生レポート	13
学生・キャリア支援センター	6	地域こども学科 学生レポート	14
教育支援センター	7	学友会・大学祭実行委員会	15
自己点検評価室	7	同窓会 あせび会	16
情報メディアセンター	8	奈良佐保の取り組み (カレンダー) ..	17
入試・広報センター	8	奈良佐保の取り組み (新聞記事)	18
図書館	9	奈良佐保の取り組み (新聞記事)	19

学生の主体性を育むために

学長 馬越 かよ子

特に今、短期大学には、短期間で学生たちに、自己肯定感や自尊感情を育み、学ぶ意欲やキャリア形成意欲などの成長意欲を喚起させ、自らの能力を伸ばしてくれる学びの場にいるという安心感や充実感、さらにロイヤリティーを与えていくことが求められます。さらに、文部科学省は、短期大学の特色として「地域の身近な高等教育機関として、短期間で大学としての教養教育やそれを基礎とした専門教育を提供する」ことを挙げています。そのような中で、本学では、学生は、短期大学の強みである「なりたい自分像」に向けた資格取得の養成校として、短期間で専門職として最大限の実力を身に付けることができる期待と卒業後のビジネス社会への憧れを実現させる夢をもって学んでいます。

小学校に勤めた卒業生から、「大学の畑で野菜や花を植え継続して育てる作物づくりを経験したことで、子どもたちに、キャベツの苗を育て世話をすることなどを通して、命の大切さをはじめとして、自然の力や魅力、他者と力を合わせて育てる楽しさや感動など、大切なことを伝えていくことができる。」と、うれしい便りがありました。

専門職として確かな実践力と豊かな人間力を持つ付加価値の高い人材育成を目指した取り組みの一つとして、大学の農園を活用した活動を取り入れており、上述の学生もこの活動を体験して、その経験を小学校現場で活かして、理想の教員像に向けて教育を展開していることが伺えます。

また、学生たちは、栽培した花を「花いっぱい運動」として、地域に配布し地域の方々と交流をする中で、多くの方が防災に対して不安をお持ちであることを知り、防災意識の高揚やイザという時の心構えなどを体験する地域住民参加型の防災訓練を、本学の体育館を使って、教職員と一体となり、奈良県や奈良市などのご協力も得ながら実施しています。

本学ではこれまでも広報をはじめとして様々な取り組みに学生がボランティアとして参加し



ていますが、最近では与えられた活動だけではなく、学生目線で考えた取り組みも始めています。牛乳パックを使った色とりどりのランプシェード作りもその一つです。ほのほのとした明かりが一日の学びや業務を終えた学生や教職員の心を和ませてくれています。

学生の主体性の有無が問われる昨今ですが、目的が明確であり興味を持てる取り組みであれば学生たちは自主的に動き出しています。

併せて、本学の「ほっとかない教育」に貫かれた人に寄り添う関わり方の大切さが、専門職として子どもをはじめとする他者との関わり方に大いに参考になっていることや、専門分野以外の幅広い学びや取り組みなどが、自らの人間性を豊かにさせていることなど、卒業生たちが語る言葉の端々に本学の取り組みが根付いてきていると感じます。

卒業後、職場や地元で、様々な人と協働する力や幅広い教養が求められる中、地域の文化や経済の発展に寄与することを視野において、課題に自ら気づき、より良い方向を目指せるような主体性を育む教育を、今後とも進めていき



花いっぱい運動



ランプシェード



農園(夢の丘SAHOファーム)

第2回地域住民参加型の地域防災避難訓練を実施して

防災・環境委員長 木田 一芳

この取組を始めた経緯

①文部科学省

2006年に文部科学省は「教育基本法」を次のように改正しました。

第7条 大学は、学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。

この改正により、大学の社会貢献・地域貢献が、大学の果たすべき使命として明確に規定されました

②国土交通省

2015年に国土交通省は「国土形成計画」に次のような内容を記載しました。

大学等が、社会に貢献する人材の育成や、地域の連携拠点としての機能を果たし、また、大学等や大学生と地域のかかわりが継続的な活動につながるよう、その取組を促進する。

この記載により、今回、初めて「大学生」という記述が行われました。

③学長のリーダーシップ

馬越学長から、防災・環境委員会に「地域と共にある大学づくり」そして、「学内農園を活かした地域貢献・本学の専門性を活かした地域貢献」の具体的な取組を検討するよう指示がありました。

一方で生活未来科の学生が、「地域を知る」をテーマに、大学周辺の各家庭を訪問し、地域住民の意見を集約しました。その結果は、大学周辺地域の平均年齢が70歳以上であること、第1次避難所まで避難する体力面での不安があること、目の前にある本学への避難を希望していることがわかりました。このことを受けて、防災・環境委員会は、地域住民参加型の地域防災避難訓練を計画するに至りました。

この取組に込めた思い

①地域住民に安心感

本学に避難できることに安心感を持っていただく取組にすること。

②学生に社会で求められる力の付与

学生に各専門分野にプラスする価値(防災意識)を与え、卒業後も防災意識の高い専門職として地域社会で、安心な地域づくりの推進役ができる取組にすること。

③大学の地域貢献

今後の第2次避難所の支援体制の充実・強化を図れる取組にすること。

④教員・職員・学生の研修

地域防災避難訓練当日の朝、班分けや各班の担当内容を発表し、その場にいるメンバーで役割分担と打合せをし、1時間30分後に避難所の運営を行うブラインド研修になる取組にすること。実際の災害時は、集まった人員で避難所運営をせざるを得ないことから、より実践的な研修手法であるブラインド研修にしました。

実施日時 令和元年9月28日(土)11時00分～13時00分

実施場所 奈良佐保短期大学(体育館・グラウンド・2号館等)

参加者

本学の教職員36名、学生113名、学外避難者(協力団体含む)231名の合計380名の参加がありました。

協力団体として、奈良県、奈良市、奈良市消防局及び消防団、奈良警察署、奈良県栄養士会、自衛隊、ダイドードリンコ株式会社の産官民の協力を得ました。

地域防災避難訓練後の総括会議

地域防災避難訓練後に、この活動に関わっていただいた産官学民の方にお集まりいただき、次年度に開催する地域防災避難訓練へアドバイスをいただきました。

タイムスケジュール

9:10

学内参加者の全体打合せ及び各班打合せを行う。

10:30

町内放送による訓練実施のお知らせを行う。

11:00

避難者を体育館へ誘導する。(随時)避難者確認後、住宅地図にマーカー表示する。確認後、避難者は次にあげる体験活動に自由に参加する。

①段ボールヘッドの組立体験

②エコノミークラス症候群予防運動体験

③段ボールの簡易トイレの組立体験

④AEDの操作体験

⑤応急担架の作り方と運び方の体験・トリアージタッグの展示

⑥カブラ・折り紙でできる遊び、絵本の読み聞かせ等

⑦避難用リュック・新聞紙でつくるスリッパ体験

⑧防災食の調理体験

⑨地域調査報告

⑩防災グッズ展示・備蓄防災食の配布(奈良市)

⑪バックッキングのデモと災害支援車展示(奈良県栄養士会)

⑫ロープワークと災害時に必要なノウハウと人命救助装備品(自衛隊)

⑬飲料水提供(ダイドードリンコ)

⑭その他

炊き出し訓練(400食)

試食:カレーライス(2号館)

11:30

ドクターヘリ着陸のために消防車両によるグラウンドに放水開始

消防車両緊急出動時のバックアップのため消防団待機

12:00

ドクターヘリ着陸(グラウンド)

パイロット・医師・看護師が降り立つ

ドクターヘリ機内を見学

12:30

ドクターヘリ離陸(グラウンド)

13:00

訓練終了



全体打ち合わせ



体育館の様子



体験中の参加者



ドクターヘリ見学

福祉フェスタ

人とのつながりが学びをもたらす



生活福祉コースでは、音楽訪問「万華鏡」のお二人をお招きしました。視覚障害のあるご夫婦のバンドで、童謡や唱歌、ご夫婦のオリジナル曲を披露していただきました。

「もみじ」「上を向いて歩こう」の2曲については生活福祉コース1回生の学生が手話やダンスと一緒に参加しました。お二人の息の合った姿、素晴らしい楽曲や演奏に学生は感動し、コンサート終了後もたくさんお話を伺いました。視覚障害のある方の社会参加について学ぶきっかけにもなりました。

午後からは大学キャラバン（奈良県実施）と奈良佐保短期大学の福祉フェスタ特別コラボ企画と

実践活動を通しての学び

11月23日（土）、今年も一般来場者の方をお迎えしてのイベント、福祉フェスタ・こどもフェスタが無事に終了しました。食物栄養コースでは毎年2回生は、給食管理実習の一環としてランチ販売、1回生はフィールド活動の一つとして体験コーナーを担当します。

ランチは、「ボリュームたっぷりわんぱくランチ」というテーマでカレーピラフ、ヘルシーポテトバーガー～フルーツソース添え～、ミネストローネ、さつまいもときゅうりのサイコロサラダ、バナナのおからパウンドを提供しました。こどもたちの好きな味を考え試行錯誤して作り上げたランチ。前日からの仕込みは大変でしたが、親子が笑顔で食べる姿や「おいしかった」、「ごちそうさまでした」の声は学生にとってやりがいに繋がり、疲れも吹き飛びました。ご協力頂いたアンケートには、味や食材の選択のことなど保護者の方からの適切なご意見をいただくことができ、今後の糧にすることができました。

地域活性化のとり組み



ビジネスキャリアコースでは一回生が福祉フェスタに「考えよう！私たちの奈良地域活性化」というテーマの発表会を行いました。

奈良の地域活性化はこれまで寺社仏閣などの地域資源を生かした観光客の集客が中心テーマでした。そのため、地域に住む生活者の視点は後回しとなり、いわゆる都市化に関する地域活性化は進んでおらず、人口流出の原因の一つともなっています。そこで1回生のメンバーは、若者・留学生の新鮮な目線で都市化につなげる地域活性化提案を考え、福祉フェスタで発表しました。

提案の作成に向けて、メンバーそれぞれが地域の基礎データを調べ、アイデアを持ち寄り、グ

生活福祉コース 武田 千幸

して「介護まなびカフェ」が行われました。天理医療大学の奥田真紀子先生から「地域で療養する人々が望む暮らしを営むために」、神戸女子大学の笹谷真由美先生から「介護過程を展開することの意味と重要性」というテーマで講演をいただきました。

お二人は以前本学で教鞭をとられており、先生方のお話が聞きたいと卒業生も多数集まりました。その後奈良県大学キャラバン福祉・介護PR隊の方々と生活福祉コースの学生、卒業生などが集まり情報交換会を実施しました。介護PR隊は県内の事業所で実際に働いておられる方々で結成されており、介護の仕事に対する思いや、魅力について現場の生の声をお話してくださいました。

学生は自分自身の進路についての悩みや不安について相談することができ、また卒業生も自身の仕事について先輩に語る機会になりました。真剣さもあり、楽しさもあり、笑い声が絶えない情報交換会となりました。

食物栄養コース 島村 知歩

1回生は、医療・福祉&食育フィールドは、こどもたちに野菜に関心をもってもらおうと、野菜の種あてクイズ、野菜スタンプ、白衣を着用して栄養士体験～野菜を食べよう～のコーナーを、製菓フィールドは高齢者の嚥下や味覚、栄養価を考慮した介護スイーツ「どらやき、パンブディング、豆腐白玉」の試食コーナーを企画運営しました。

フードビジネスフィールドは「選べるパンとスープのセット」の販売、うどんの起源と言われている「春日餛飩うどん」の試食を行いました。自分たちの企画したものを多くの方々に体験していただく機会とは初めてのことで、人と接することの楽しさや難しさを感じながらも、次へのヒントを多く得る時間となりました。



ビジネスキャリアコース 戸田 信聡

ループ提案にまとめていきました。

一人ひとりのアイデアをグループ発表として、一つのストーリーにし、まとめていくことはなかなか難しかった様です。また、自分たちの研究した事柄をどのようにわかりやすくプレゼンテーションするかについても悩んでいましたが、良い経験になったと思います。

当日は、地域活性化に詳しい奈良県の職員の方もお参加いただく中で発表会をすることができました。お客さんとのやり取りをする中で、ご評価いただくコメントがあり、自分たちの発表の手ごたえを感じていたようです。

ビジネスキャリアコース一回生は入学後、ビジネスの基礎知識・パソコン活用のスキル、コミュニケーションの基礎を学びます。

しかし、福祉フェスタ発表会の様な、学んだスキルを実践の場で活用し、チームでコミュニケーションしながら社会人基礎力を養うことも大事にしていきたいと考えております。

こどもフェスタ ピアノフィールドの取り組み

こども保育コース 多田 純一

地域こども学科では、今年で第11回目を数え、令和となって最初となる「こどもフェスタ」を11月23日（土）に開催しました。

アンケートの集計によると、こども205名（0歳児から10歳児以上の合計）、保護者178名の合計383名が参加されました。

特に2歳児から4歳児が多く、保育者養成機関で行われているイベントであることが認識されていること、「来て、見て、遊んで、体験しよう」という意図が伝わっていることなどが来場者数からわかります。

ピアノフィールドは、大学祭における「おたまじゃくしコンサート」への出演など、演奏活動を主としており、「こどもフェスタ」では約20分の「ミニ・コンサート」を行いました。プログラムは、ピアノ独奏《夢をかなえてドラえもん》、ユーフォニアムとピアノによる《きのこ》、ピアノ連弾《さんぽ》、ピアノ、ユーフォニアム、グロッケンによる合奏および歌唱を含んだ《おもちゃのチャチャチャ》、ピアノ、タンバリン、鈴、ダンスを含む歌唱による《パプリカ》、ピアノ伴奏に合わせて全員で歌う《にじ》、で構成されました。

舞台上で単に演奏するだけではなく、舞台周

辺に集まってくれたこどもたちに鈴などの楽器を配布し、こどもたちと一緒に歌いつつ、時には楽器やダンスも用いて、聴衆が主体となる演奏会であることに主軸を置きました。

ピアノフィールドの学生は、日々練習に励むことで演奏に自信を付けた上で、さらに、こどもたちと音楽を分かち合う時間を過ごせたことに、充実感と達成感を得た様子でした。はじめて会うこどもたちとも一体感を得られるところが、音楽というものの力であり強さでもあります。

これからも、音楽を通じて保育者として成長していけるようなフィールド活動を目指したいと思います。



国内研修「奈良佐保短期大学附属倉敷幼稚園」

こども教育コース 高田 佳孝

11月28、29日の二日間、本学の附属倉敷幼稚園において国内研修を行いました。

11月初旬に2週間の幼稚園実習を終えたばかりのこども教育コース1回生を対象に、幼稚園教諭免許状取得に向け、さらに学びを深めるよい機会となりました。

今回の研修では、大学行事である「こどもフェスタ」において取り組んだ「紙飛行機づくり」を、附属幼稚園の子どもたちにも楽しんでもらえればと、活動を企画し材料等の準備を進め、倉敷に乗り込みました。

しかし、そこで待っていたのは、こどもフェスタの時は、子どもたちが順々に来て、個別に対応しながら活動ができていましたが、倉敷幼稚園では、子どもたちを出迎える導入から始まり、異年齢の子どもたち110名を一斉に動かすという大掛かりな活動となりました。

園長先生もおっしゃっていましたが、異年齢の園児たちを一斉に動かす機会は本当に貴重であり、現場の先生方にとってもよい経験になる活動であること、また、学生にとっても今までは個別対応ができていても、このような経験がないので、イメージがもてず難しいと思うが、失敗してもいいので思い切ってやってほしいとのことでした。

活動が始まる1時間以上も前から、準備、リ

ハーサルに入りましたが、会場を目の前にして自分たちがイメージしてたこととは違う場面が多く表出し、何度も試行錯誤しながらようやく、始まる直前にまとめることができました。

活動中は、どの学生も子どもたちに一生懸命関わり、子どもたちの反応を確かめ共に寄り添いながら取り組む姿が多く見られました。

園長先生がご教示くださった「臨機応変」というお言葉をまさに実践するよい機会を与えていただいたことに、心より感謝申し上げます。



学生・キャリア支援センターの取り組み

学生・キャリア支援センター長 高井 照隆

学生・キャリア支援センターでは、本学に入学した学生の皆さんが、卒業するまで充実した学生生活を送れるように支援しています。

奨学金のサポートやボランティア活動の斡旋、学内相談カウンセラーの紹介、就職に関する支援など学生生活全般の業務の他に、学友会行事や大学祭などの企画・運営にも携わっています。

就職に関する支援は、1回生からキャリアガイダンスを開催し、学生ひとり一人が、しっかりとしたキャリアプランを構築するため、キャリア教育にも取り組んでいます。2回生になると、4月5月の段階で、学生ひとり一人と面談を行ない自分の進路に向けて、早い段階から意識付けをおこなっています。奈良新卒応援ハローワーク、奈良県福祉人材センター、奈良しごとiセンター、ならジョブカフェのご協力により、「お仕事相談会」を今年度も開催しました。この相談会は学内で実施しているため、学生たちが授業の合間に無理なく相談することが出来、就職相談活動がよりスムーズに進みます。

各機関のご担当の方々も、本学のことをよく理解して来てくださっているので、本当に心強いサポーターとして、本学の学生の就職活動を支えていただいています。

また、公務員をめざす学生たちのために、公務員試験対策講座を開催しました。学内の独自講座と、専門の業者とタイアップした二種類の

講座を開設し、公務員をめざす学生たちに対してのバックアップを行いました。参加人数が少なかったため、学生たちが参加しやすい日程・時間帯の設定が大きな課題です。

学生生活支援として、本学は自転車やバイク、自動車による通学生がいるため、交通事故を起こさず、安全に通学出来るよう、奈良交通自動車教習所や奈良警察署による「交通安全教室」を前期と後期に開催しました。予期せぬ事故の発生事例や実際の事故の映像や講話に、学生たちは真剣に耳を傾けていました。

本学は年々東南アジアからの留学生の入学が増加しています。事故や犯罪に巻き込まれないように、文化の違う留学生が、日本で安心・安全に生活出来るよう、学生・キャリア支援センターも精一杯サポートしています。

社会人の受入れとして実施している、奈良県委託訓練事業に係る離職者訓練生として、介護福祉士、栄養士、保育士の資格取得希望者の受け入れを実施し、通常の学生とともに訓練生として日々勉学に励んでいます。

学生・キャリア支援センターは、一般学生はもちろんのこと、留学生や社会人訓練生も含めて、全ての学生たちが、日々の学生生活はもちろんのこと、卒業後も含めて、奈良佐保短期大学に在籍したことが、自分の人生の財産として、一生感じる事が出来るような取り組みを今後も進めていきたいと考えています。



公務員試験対策講座

魅力ある教育の充実をサポート

教育支援センター長 倉田 清



コミュニケーション演習

教育支援センターでは、在学生の皆さんが、楽しく充実した学びができるよう、また介護福祉士や栄養士、保育士などの将来の夢や希望を実現するための資格をきっちり取得できるよう、サポートを行っています。

これまでの特色的な授業として、社会人基礎力の一つであるコミュニケーション力を育成するため「コミュニケーション演習」では、吉本興業の売れっ子作家「藤田曜氏」を講師に迎え、2回にわたり漫才を通じた授業をしていただき、仕上げには学生たちが漫才に挑戦し、コミュニケーション力をアップしています。

また「美」をテーマに、食と美、美を高める技術の講義と演習を2回「ミス・パリ エステティック専門学校」より実務者講師を招き、健康的な食生活や正しいダイエット等について学んでいます。このほかにも、地域と一体となった「地域防災避難訓練」や「人気経営者に学ぶ一プロになるための心得」など、卒業した後を見据え、社会人として生きていく中で、命を大切にすること、楽しんで仕事をする人や人を喜ばせることの大切さ等を学んでいます。

教育支援センターは、幅広い教養を身につけ、それぞれの専門性を高めることができるよう学生一人ひとりが大学における学修計画を立て、実りある豊かな学生生活を過ごすうえで必要な支援を、これからも行っていきたくと思っています。

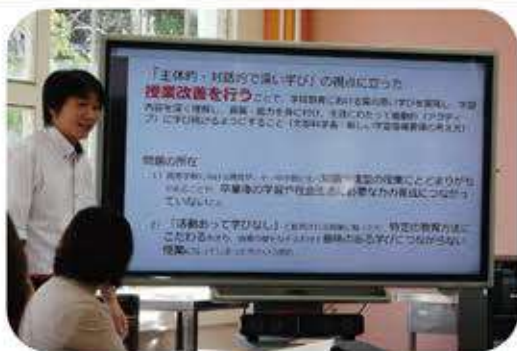
地域防災避難訓練



自己点検評価室

授業の質向上を目指した「公開授業」と「FD研修」

自己点検評価副室長 勝田 麻津子



自己点検評価活動の一環として公開授業、学修成果に関する調査（旧授業アンケート）、FD研修会、SD研修会を実施しました。

本年度、授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組みとして、「アクティブ・ラーニング」をテーマに、「情報収集から課題解決まで主体的に取り組んでゆく探究型学習を促す授業方法の検討と深化」を目的とした公開授業を実施しました。前期の公開授業は、7月2日に生活未来科食物栄養コースの「栄養指導論実習Ⅱ」、7月8日には地域子ども学科の「教育原理」「数の世界」を対象とし、のべ28名の教職員が授業を参観しました。

授業参観後の検討会を9月2日に実施し、授業担当者の振り返りのあと、公開授業参観グループごとに分かれて活発な意見交換を行いました。

後期は、10月8日「社会調査法」、12月17日

「音楽科教育法」、12月20日「体育科教育法」の公開授業を実施し、のべ26名の教職員が参加し、2月4日に検討会を実施しました。

FD研修会は、9月12日に二田貴広先生（奈良女子大学附属中等教育学校国語科）を講師にお招きして、「中学校でのアクティブ・ラーニングの実践例とその評価～子どもたちの変容をふまえて～」のテーマで開催しました。

二田先生が実践されている動画を活用した授業展開を紹介していただき、実践的で示唆に富んだ研修となりました。参加教職員からも、授業におけるICTの活用法、公平な成績評価方法についてなどの質問が寄せられ、参加者アンケートでも「わかりやすく、研修時間がもっと長くてもよかった」等の声が多く寄せられました。

大学評価については、目的の明確化に向けて、教育・研究等に関する主体的な質保証の実質化、大学の個性・特色ある教育研究活動等の自律的な展開の方針が明確に示されています。

今後の本学の課題としては、特色ある教育方針の取り組みをウェブサイト等で紹介する一方で、授業評価の方法についてさらに検討する必要があると思われま



学生のITC活用に向けて

情報メディアセンター長 阪口 弘



情報メディアセンターでは、大学全体のネットワーク、セキュリティ、サーバ、パソコンなど情報機器の管理、ICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）を活用した学習環境の整備など、学生の皆さんや教職員の業務を支える情報システムの構築に取り組んでいます。

今年度はGoogleの教育機関向けサービス G Suite for Educationの導入とそれに伴う規程の整備や契約の締結を行いました。また、Microsoftとは、教育機関向けシステムを強化し、大学に

在籍中は、自宅のパソコンにOffice365をダウンロードし利用できる環境に変更しましたので、WORDやEXCELを使った自宅でのレポート作成などに役立つと考えています。

次に今年度、学生の皆さんに向けた情報システムの新しい取組みとして、学生用の電子メールアドレスを発行し、学内のウェブサイト上にあるRoundcubeで外部と電子メールでのやり取りができるようにしました。これによって、就職活動時のメールアドレスの登録はもとより、教育用ソフトのアカデミックバージョンが購入できるなどの特典にも役立っています。

一方、学内の情報システムについては、昨年度の学生向けパソコンのWindows10導入に続き、教職員向けのパソコンについても、Windows10をベースとした新しいパソコンに入替を行い、事務の効率化を図っています。

更に、セキュリティソフトの導入及びセキュリティ研修会を実施し、これらが情報漏洩リスク対策につながるものと考えています。

次年度は、特に冒頭に示した、教育機関システムの授業への展開（Google Classroom）を予定しており、これらの実現に向けサポートしていきたいと思っています。

<セキュリティ研修会より>

入試・広報センター

本学初の長期インターンシップに取り組んで

生活未来科
ビジネスキャリアコース 2回生 中島 幸大

私は、今年度の後期から奈良佐保短期大学の「入試・広報センター」にて、長期インターンシップをさせて頂いています。

業務内容は、アンケート調査の集計・グラフ作成、書類作成、入試や学内イベントの事前準備、高校での大学紹介など多岐に渡っています。

集計・グラフ作成や書類作成においては、在籍しているビジネスキャリアコースの講義内容と共通している部分があり、また、インターンシップ中のビジネスマナーにおいても講義の内容を実践形式で反復学習できるなど、他の学生よりも大変貴重な経験をさせて頂いています。

様々な業務に携わり、沢山の経験をさせて頂くことはとても有難いと感じています。しかし、このような有難いチャンスを掴んだのは「何事にも積極的に挑戦すること」の成果だとこのインターンシップで実感しました。

今年度の全てのオープンキャンパスの司会をさせて頂いたり、学友会行事などに積極的に参加したりして、自分自身の「能力開発」に努め

た結果、この素晴らしいチャンスを手にすることができたと思っています。

「失敗することが怖い」「恥ずかしい、めんどくさい」「自分には関係ない」と折角のチャンスを逃してしまったりは、このようなチャンスはやってこない事を自分の人生を使って経験することができたと感じています。



図書館

図書館では、学修成果の獲得に必要な学生への支援や学習環境の整備に努めています。また授業だけでなく広範囲での学び、教養を身につけてもらう場を提供するために様々な企画を催しています。

きらっと☆図書館講座 2019の報告

卒業生からのメッセージ講座



2011年から始めたこの講座では、卒業生に就職後の話や学生時代に取り組んで良かったことなどを伺っています。

シリーズ11回目となる今回は、5月17日(金) 12:20～12:55に、2016年度生活未来科生活福祉コース卒業生の稲葉さん、東さん、利田さんにお話しをいただきました。

現在、稲葉さんは「グループホーム ならの

郷」で、利田さんは「あすならホーム郡山 ショートステイ」で、東さんは「介護老人保健施設ぬくもり田原本」で介護福祉士として働いています。

卒業生の3人は、「仕事をする上で大切にしていることは何ですか」「学生時代にしていた良かったこと」等、在学生からの質問に真摯に答えていました。

生活福祉コースの学生など約20名の参加があり、参加者からは、「自分がどのような事を考えて就職先を決めればよいのか、この2年間で勉強しておいた方が良い事を知れたので、今は課題がたくさんあって大変ですが、頑張ろうと思えました」「様々な生の声がきけて良かったです」などの感想が寄せられました。

きらきらよ子の遊び講座



2009年から始めたシリーズ10回目となるこの講座を、6月12日(水) 12:25～12:55に開催しました。

今回は、「歌は友だち：施設で使える！音楽レクリエーションの実際」と題し、音楽ボランティアをライフワークとして活躍中である本学非常勤講師の和田宏一先生と宮田真理先生が、施設

でのレクリエーションの場において音楽をどう生かせば良いかについてご指導いただきました。

前回の講座に引き続き、本学教授の安永龍子先生と准教授の武田千幸先生による「福祉施設などでおこなうレクリエーション：音楽を使った体操」の実演や指導もありました。生活福祉コースの学生など約30名の参加がありました。

「音楽療法には興味がありましたので、良い機会になりました」「これからレクリエーションを考えていく上で選曲したらよいものが分かって良かったです」などの感想が寄せられました。

2019 大学祭 図書館イベント

「えほんのひろば」「としょかん de カフェ」に加え、昨年度に引き続き今年度もパンの販売やお昼には、「としょかん de にゅうめん」も同時開催しました。

10月26日(土)、27日(日)の2日間で約30組の家族連れや卒業生、一般の方など延べ約310名の参加がありました。



今年度のイベント

5月17日

きらっと☆図書館講座2019 卒業生からのメッセージ講座

6月12日

きらっと☆図書館講座2019 きらきらよ子の遊び講座

10月26日、27日

大学祭イベント2019 「えほんのひろば」「としょかん de カフェ」「としょかん de にゅうめん」

12月23日～25日

としょかん de カフェ：Xmasバージョン

としょかん de カフェ：Xmasバージョン

大学祭で好評だった「としょかん de カフェ」を12月23日(月)～25日(水)のクリスマス時期にも開催しました。

試験やレポートの合間に、ほっと一息し、ゆったりとした時を過ごす学生さんで賑わいました。



“学びの場”としての子育て支援センターゆめの丘 SAHO 子育て支援センター長 和田 公子

奈良市の委託を受けて開設した「奈良市地域子育て支援センターゆめの丘SAHO」は、今年度5年ごとに行われる2回目の審査を受けて、無事委託契約を継続することができました。

バックアップ委員の先生方や、事務を担ってくださっている総務部の方々のおかげだと感謝しています。

さて、奈良市内にある子育て拠点の中で、保育者を養成する学校内にあるのは「ゆめの丘SAHO」が唯一です。

学校内にある四季折々の豊かな自然環境、校内を歩き交う多様な世代の人たちとの関わり、専門性を活かして相談事業にかかわってくださっている先生方など、他の拠点にはない特徴があります。これらのことは、今回の審査においても大きな評価を得ています。

さらに、養成校の中にあるからこそ、様々な資格取得を目指す学生の学びの場としても欠かせない拠点になっています。

しかし、開設10年を超えますと、「ゆめの丘SAHO」の存在が当たり前になってしまって、「初めて中に入った」「何をしているのか知らなかった」「関心がなかった」など、思うほどに学びの場になっていないようにも感じています。学びの場であるゆえに「小さい子どもたちが集うのを見るとホッとする」や「赤ちゃんには癒される」だけでは学びにならないことは言うまでもありません。

だからこそ、課題意識や目的をもって積極的に中に入ってほしいと思っています。地域こども学科だけでなく、生活未来科の学生にもぜひ中に入って子育て親子に関わってください。

子どもの成長、親の喜びや戸惑い、職員の関わりや室内環境など学ぶことはきっとあります。

授業内だけでなく、空き時間があればのぞいてみてください。学生の皆さんだけでなくぜひ先生方も。



まほろば古道の魅力



「倭は国のまほろば たたなずく青垣 山籠れる倭し麗し」

景行天皇の皇子・日本武尊の御歌に詠まれた、大和青垣に沿って桜井から奈良に通じていた、わが国最古の道といわれている「山の辺の道」を2019年11月2日（土）、奈良佐保短期大学「公開講座・山の辺の道散策」に、奈良・帯解間約10kmを案内させていただいた。

このコース上には、新薬師寺・白毫寺・崇道天皇陵・圓照寺・東へ分岐して正暦寺、西へ分岐して帯解寺等の古刹があり、散策者にとって身体の健康の増進に役立つ事は勿論のこと、別

山の辺の道奈良道を守る会 事務局長 藤本 忠彦

名「祈りの道」として「心の癒し」に大いに効果があったものとおもっております。

散策が終わり昼食をいただく為に、学校に戻り窓外に目を移した時の眺めの素晴らしいこと、言語に絶するものがありました。

遠か西に金剛・葛城・生駒の山並み、そして振り返れば指呼に高円山を仰ぎ見ることができ、又ほんの近くの県立高円高校辺りは、かつて聖武天皇高円離宮があったといわれている絶景の場所である。

「孟母三遷の教え」ではないが、このような、好環境で勉学に勤しまれる学生さんは誠に幸せ者であるといえましょう。



広報ボランティアに参加して

私が広報ボランティアに参加したきっかけは、奈良市の伝統行事の数々のボランティアに参加していたので大学でもオープンキャンパスのスタッフとして協力したいと思ったからです。

オープンキャンパスのスタッフを学生が行うことで実際に佐保で過ごしている経験や体験したことを高校生の方や保護者の方に伝えることができると思いました。

オープンキャンパスの司会を担当した時は、自分が高校の時不安に思っていたピアノについて話しました。高校生の頃、とても不安でした。しかし、大学に入学してからは一人一人の個人レッスンの時間があり自分の苦手や課題を中心に指導していただけるので自分自身の不安が減りました。

また、オープンキャンパスでは、遊びのポケットというコーナーがあります。そのコーナーでは、毎回テーマがあり製作を通して大学の学生や先生方とコミュニケーションを広げることができました。

自分がこの学校で保育について学ぼうと思ったきっかけをオープンキャンパスに来てくださる高校生の方に伝えると共に魅力も発信できた

地域こども学科 2回生 蛭川 舞

らと考え、高校生に話しやすい雰囲気や笑顔で説明しました。

昨年、オープンキャンパスに参加してくれた高校生が4月に入学し現在、オープンキャンパスの一員として一生懸命活躍している姿を見て、スタッフを通して高校生との懸け橋ができた嬉しく思いました。



生活未来科 生活福祉コース2回生 BUI TUYET TRINH(ブイ トゥエット チン)

日本に来てもう2年になりました。日本に来る前はベトナムの大学で約4年間日本語を勉強して来ました。日本語を勉強しているうちに日本語の文法や日本人の考え方が気になって、一度日本へ来たいと思いました。

日本に来て、介護福祉士を目指すために現在は奈良佐保短期大学、生活未来科生活福祉コースで勉強をしています。

良い介護福祉士になるためには、介護の仕事をやりたい気持だけではなく技術も持たなければなりません。高齢者になり、身体機能はどうなるのか、どんな病気になりやすいか、なぜ認知症の高齢者がだんだん増えてくるのか、色々なことを知りたかったです。それに高齢者になっても、最後まで良い生活を送るために、介護福祉士はどのような知識を持たなければならないか考えていました。そのため学校の授業を受けながら老人保健施設でアルバイトをしています。

学校で習った知識を活用して仕事ができただけ、嬉しかったです。最初授業を受けたとき、日本語の専門的な言葉が分からなかったため授業の内容を深く理解できなくて困っていました。

それに、介護実習へ行くたびに日本語の難しさが分かり、実習中毎日記録を書かなければ

ならないため、いつも3、4時間かかっていました。

アルバイトをしていた時も認知症の高齢者の行為が分からなくて適切な対応が出来なかったことで困りました。学校の授業以外毎日、高齢者のこころの理解、認知症の理解などを頑張って調べて勉強しています。

私は、2年間日本で生活をしていることは良い経験だと思っています。外国人に対して日本に来て生活することは大変なことだと思う人が多いと思いますが、私は日本に来て良かったです。

佐保短期大学で介護福祉の知識を身に付ける以外に日本人の友達が出来ました。

毎日、クラスの人々と一緒に勉強したり、遊んだりしていることで、学校は一番行きたい場所になっていました。いつか学校は大事な所になっていました。卒業しても、先生達、クラスの人々を忘れられないと思います。

2年間、お世話になって誠にありがとうございました。



日本語教育別科

NGUYEN THI MAI(グエン ティ マイ)

初めて親の手を離れ、日本に来て初めて新しい文化に触れ…。19歳の私にとって日本での生活はすべて初めてです。

日本に来たての頃はいろいろと困ったことがあり、本当に大変でした。日本語がわからなかったし、話せなかったし、友達ができなかったし、寂しかった。その時、先生方は私に自分を信じることを教え、いつも助けてくださった。それから、奇跡が起きました。

4か月を経て日本語能力試験N2が取れたがその4か月は辛いことも少なくなかった。先生が教えてくださったことを抜きにしては奇跡なんて絶対起きなかったと思います。

勉強だけでなく、生活のこととか社会のことなど、母のように教えてくださったので生活に大体

慣れることができました。

心から感謝しています。また、アルバイトとして老人ホームで様々な方に出会えました。彼らは単なる利用者さんでも面倒を見なければならぬ人でもありません。

彼らは人生の先輩です。介護の仕事は、大変は大変ですが、その仕事を将来、私はしたいです。

日本で経験していることは勉強になり、自分をだんだん改め、価値観も変わってきています。日本で教えられることと日本での思い出はきっと一生忘れられないものになるだろうと思っています。



交換留学生

大連大学 聶 安琪(ジョウ アンキ)

月日の経つのは早い。この学校にやってきて、もうすぐ1年になります。

今回の留学で初めて、いつも生活し、慣れ親しんでいた土地を離れたので、最初の時はとても緊張と不安でした。でもあの時、先生からの愛想と優しさに慰めを感じました。本当にありがたいです。それに、発音も聞き取りもまだうまくいかなかった私は、みんなと流暢に交流するのはちょっと難しいと思いました。

幸運なのは周りの学生たちはとても親切で熱心で、わからないことを教えてくれて、いろいろなことを注意してくれて、たくさんの助けを与えてくれました。

このおかげで、順調にこの学校での時間を過ごしました。

振り返ってみると、毎日、先生や学生と元気の挨拶と顔に浮かんだ微笑みからもエネルギーを得て、料理の授業でメンバーと一緒に力を合わせて料理を作って仕上げてみんなと一緒に食べて達成感を楽しんで、畑で働くのはちょっと疲れたけどこう楽しかった、食堂の定食への期待も普段

の楽しみの一つになりました。

この学校もここで出会った皆さんも私の生活の一部になって、私にとってここは暖かくて良い思い出がいっぱいあるところです。

春の満開の桜から秋の紅葉、そしてこれからの冬の雪、奈良の四季の景色も深く脳裏に焼き付いています。

日本で生活を体験して、こんなに美しい風景を見ることができて本当によかったと思います。

一年の留学生活はもうそろそろ終止の符を打つところですが、私が今日まで辿りつけたのは、皆さんの助けと配慮があったからだと思っています。

この1年間にいろいろお世話になった先生や学生への感謝で胸はいっぱいです。

日本で学び、感じ、思ったそれぞれのよい思い出を忘れずに、この留学での経験を次のステップとして役立てたいと思います。



介護実習を通じての触れ合い

生活福祉コース1回生 竹原 良一

初めての介護実習に参加する前日には不安と緊張で一睡も出来ませんでした。色々なことを考えれば考える程に緊張感が増大し、気分は沈み、口はカラカラになり、予防接種前日の小学生の様になっていたと思います。



ですがそんな考えは杞憂に終わりました。最初の実習ではとりあえず「コミュニケーションの取り方」を模索し、出来る限り多くの方と会話を行い、顔を覚えていただきたいと思っていましたが、利用者の皆さんに温かく迎えていただき、たくさんコミュニケーションを取ることが出来ました。「お兄ちゃんトコはお婆さんいてはるの?」という質問から始まり「これ孫の海外土産やねん」と少し派手なTシャツを嬉しそうに見せてくれた方。ご自宅にお迎えに行った時に見せていただいた20年飼っているというミドリガメ。気が付くとあっという間に実習最終日。

「就職するんやったらここに来てや」「次の実習も来るんやろ?」施設の職員の方に言われても社交辞令かな、と思うかも知れませんが触れ合った利用者の方々に言われると再訪したくなる気持ちが強くなっていました。残念ながら再訪予定していたボランティアの予定日は台風により中止になってしまい叶いませんでしたが。

現在、就職先は全くの白紙ですが、どこかの施設に就職した際には「お久しぶりです!実習が楽しかったから就職しちゃいました」と挨拶できる日がくることを願っています。

活躍の場を広げるために

ビジネスキャリアコース1回生 柴田 貴子



「就職活動に向けて」「たくさんの資格を取って卒業したい!」そのために、入学後すぐに「介護職員初任者研修」の資格講座を受講しました。

休日に講座を受けるのはとても辛かったですが、私は卒業後どのような仕事に就くか明確になっていませんでした。

小さい枠で選ぶより、大きな枠から就職先を探せるように、取れる資格は取るようにしました。

また、ビジネス文書の授業では、文書作成能力を学びながら、自分の考えを「わかりやすく・簡潔に」伝える伝え方も学んでいきました。「わかりやすく・簡潔に」伝わる文書が書けるようになることは、相手に「伝える力・話す力」も上達することだと思いました。

この1年間で、学んだ知識を資格に変え就職活動に活かして行きたいと思っています。

医療福祉フィールドでの取り組み

食物栄養コース2回生 吉岡彩華

医療福祉フィールドでは、2回生前期に農園の野菜も活用した献立を考え、グループホームに昼食を作りに行きました。



学外の方に食事を提供するための献立を組立てるのは初めてだったので、どんなものが喜ばれるか、高齢者の方が食べやすくするにはどんな調理法がよいかをみんなで考え何度も試作を繰り返しました。

当日は、緊張や慣れない設備で提供時間に遅れてしまいましたが、利用者さんに「美味しかった」「全部食べたよ」と言ってもらって頑張って準備して良かったとホッとしました。また、高齢者に不向きな食材を知ったり、食事の仕方にも個人差が大きいことなど教科書だけではわからなかった実践的なことを学ぶことができました。

糖尿病レシピコンテストにも応募しましたが、残念ながら悔しい結果に終わってしまいました。しかし厳しい制限のある治療食に挑戦して、食事療法の難しさや患者さんが前向きに取組めるために栄養士に何が出来るか考えることができました。これからもフィールドで学んだことを糧に喫食者を思いやった栄養士を目指してまいります。

学外実習での学び

食物栄養コース2回生 岩野 志津



私は重度の知的障がい者施設に1週間、実習に行かせて頂きました。

実習中は給食提供に関わる調理業務の実習だけでなく、調理現場を離れ、利用者さんの喫食状況の観察、お散歩、お買い物、リハビリ、電車でのお出掛けにも同行しました。

実習を通して支援とは、1人ひとりの内面を受けとめて、本人の望みを実現できる環境、関係を整える事。何が本当に必要なのか、問い続け、考え続ける事が福祉の仕事であると教えて頂きました。

利用者さんと関わり「その人」を知る事、今までの暮らしや特徴を知る事、栄養価を整えるだけでは、その人の豊かな食事は作れない事を学びました。この実習で、喫食者の表情や気持ちに、食事から寄り添える栄養士を目指すことが私の目標となりました。

初めての幼稚園実習

こども保育コース1回生 西村 流南



私は、入学後、初めて1週間の幼稚園実習を担当しました。3歳児を相手に、1日を通して子どもたちと向き合いました。最初は緊張感を感じていましたが、子どもたちの笑顔が、私に大きな励みを与えてくれました。最初は「すごい！」と驚いていましたが、子どもたちと一緒に遊ぶうちに、自然と笑顔が溢れてきました。子どもたちと一緒に遊ぶ時間は、本当に楽しいです。子どもたちと一緒に遊ぶ時間は、本当に楽しいです。

先週の保育者への質問と、今日の現場での実践。子どもたちと一緒に遊ぶ時間は、本当に楽しいです。子どもたちと一緒に遊ぶ時間は、本当に楽しいです。

私は、それぞれの年齢に合った褒め方があることを知り、次からの実習では「すごい！」の一言だけでなく、子どもたちに、チャレンジする楽しさを感じてもらえるような言葉掛けを準備して実習に臨みたいと思いました。

学習指導ボランティアに参加して

こども教育コース2回生 依田 芽衣

小学校へ学習指導ボランティアとして参加した際、転入後、学級に馴染めず、保健室へ登校した3人の子供に出会いました。初めは、言葉が通じず、暴言が強くありました。



しかし、女の子の興味・関心を引き出し、諦めずに丁寧に関わり続けたことで、少しずつ心を開いてくれるようになりました。そこで、彼女自身、本当は学級復帰を望んでいることを知りました。意欲が湧いてきたら、休み時間に、他校の児童会から出てくることを誘いました。さらに、教室に入るには至りませんが、廊下から、学級の授業を見ることができました。

このことから、私は、子どもたちの個性や背景を知り、一人一人と丁寧に関わることを大切にした。実践する立場では経験する理想とできる教師の在り方を見つけた。ボランティアとなりました。

ひとつ上へ

こども教育コース1回生 原田 龍ノ助



子ども教育コースの1回生は、11/28から29までの泊2日で奈良佐保短期大学付属倉敷幼稚園へ研修に行かせていただきました。

一日目は、園長先生による園の紹介と、お昼ご飯から降園までの間の見学実習でした。

二日目は、教育コースで考えた、飛行機の型の画用紙の上に子供たちが絵を描く制作を全体で行い、ねらいとして「飛行機の姿を思い浮かべながら思い思いの飛行機を作ることを楽しむ」ことができるように意識をして取り組みました。

子供の人数が100人を超えており、今までにない経験ができ、ひとつ上の保育に関わることができました。

2日間で、たくさんを感じ、学ばせていただきました。この経験は、一生のうちでもとても貴重な2日間になりました。

素敵な仲間へ感謝

こども保育コース2回生 (保育ソーシャルワークフィールド) 岩本 登美子

2年間の学生生活を無事に終えることができたのはクラスの仲間、先生方、家族の支えのおかげです。クラスの仲間が自分の目標に向かって学ぶ姿があったから、私も社会福祉士になるための学びを深められたと思います。

私の最初の友達、としちゃんは、私を「とみちゃん」と言って笑顔で話しかけてくれました。クラスの仲間とは、いろいろなことを話し合いました。その中でも実習が終わり、こんなことがあったよと話してくれる仲間の話を聞くのが楽しみでした。

実習を経験するごとに保育者の顔になっていき、4月からは本当の保育者になる仲間がいることは私のかけがえのない財産です。そして、先生方は久しぶりを学生活で過ごす時間を大切にしてください。

卒業後はこ土がえを、2年間を人あいを、台つるお手いします。



学友会活動を通して

学友会会長 地域こども学科2回生 林 穂香

第55代学友会会長を務めさせて頂いて、今までできなかった経験がたくさんできました。

最初はみんなの意見や学友会への思いなどの違いでぶつかり、私はどちらかという意見をもとめるのは得意ではないのでとても苦戦しました。しかし、全員思っていることを伝え合うことで、行事の会議をするときは賛成の意見も反対の意見も言い合える関係ができました。この関係を築いて初めて挑んだのが9月の後期授業開始時に行った「ビンゴ大会&屋台」でした。

役員の1回生、2回生がペアで行事の責任者になり、学友会全体で話し合いながら、準備をして挑みました。どのくらいの学生が参加してくれるのか、不安に思いながら当日を迎えましたが、約8割の学生が参加してくれました。アンケートでも楽しかったという意見が多く、大成功したと言っているくらいのものだと感じました。大成功したのは、責任者2人が夜遅くまで学校に残り企画書を作成し、当日までの準備を全員で頑張ったからだと思います。

行事はこれだけではなく、護国神社のお祭りに参加させて頂いたり大学祭実行委員会の補助

をしたり等たくさんのことをして、大人数で1つのことを行う難しさ、全員でやり遂げる嬉しさを体験しました。会長として学友会2回生に助けてもらい、苦戦しながらもみんなの意見を聞いてまとめることができたから、やり遂げる楽しさを経験できたのだと思います。私が1回生の時の学友会の先輩、今の学友会メンバーと一緒に行事ができたうえに、会長をすることができてよかったです。



大学祭実行委員会

大学祭実行委員長として

大学祭実行委員長 地域こども学科2回生 奥野 花菜

第55回奈良佐保短期大学大学祭は、たくさんの方々の協力により無事に開催することができました。大学祭実行委員長をさせて頂き、共に信頼し合い協力する大切さを実感し、学ぶことができました。

私が大学祭実行委員長になろうと思った理由は、自分たちの力で企画をして、自分たちの力で実行し、1つのイベントを成し遂げることが好きだからです。過去にも中学や高校で生徒会に入り、文化祭をみんなで作り上げてきました。

実行委員長になり、最初は教職員に何をするのかを聞き、手探りで大学祭の準備を進めていきました。準備を進めていく中でつまずいたときに、去年よりも楽しい学祭になるのだろうか不安になることがありました。夏休みも終わり後期になって、大学祭が近づいてきたという実感

が湧いてきました。準備も当日に向けてやらなければならないことが具体的になる一方で、各部署の把握や自分たちのやらなければならないことへの責任が重くのしかかってきました。しかし、それを乗り越えられたのはほかの実行委員のメンバーや教職員の支えがあったからです。

大学祭当日は、とにかく自分自身も楽しみ盛り上げていこうという気持ちでいっぱいでした。楽しさの中には、これまで一生懸命準備を重ねて作り上げてくれた人がいることを忘れず「ありがとう。お疲れ様」と伝えることを心掛けました。

大学祭は絶対に1人で作り上げることはできません。実行委員やボランティア学生、教職員が支え合うことで素晴らしい大学祭を行うことができました。



もっと若い世代へも同窓会の輪を広げたい

同窓会あせび会 会長 宮城 智子

9月の第1日曜日となる1日、今年も奈良ホテルにおいて同窓会あせび会総会と懇親会を開催いたしました。

総会にはあせび会名誉会長でもある馬越学長、懇親会には学長と倉田事務局長もご臨席下さり、予定の終了時間を大幅に超えるほどの盛会で笑顔いっぱいの会となりました。

令和元年のこの年、あせび会は役員改選の年となり新役員でスタートです。17年の長きに渡り会長としてあせび会にご尽力いただいた大仲会長は顧問となられ、今後ご指導ご鞭撻をいただきたいところですが、一つの節目として会から心ばかりの花を贈呈させていただきました。

大仲会長のお人柄と役員や幹事の皆様の努力により、あせび会は佐保女学院と佐保短期大学の同窓会として輪が広がりつつあります。今年には総会出席者の3分の2が短期大学卒業生で男性も3名の参加がありました。

孫や子どものような年頃の同窓生を皆優しい眼差しで見えていましたが、「こんな楽しい総会とは思っていませんでした。」「仕事の参考となる話が聞けてよかった。」「うんと年上の先輩から声をかけてもらえた。」などの声も聞かれ、年に一度の再会を楽しむ方もあり、皆それぞれに楽しんでいただけたようです。



3月卒業の新幹事が受付を手伝ってくれるのも恒例となり、今年も初めて会う先輩と一緒に活躍してくれました。

講演は、平成5年短期大学卒業で株式会社天楽座代表取締役の加藤陽香さん。テーマは「はじまりの奈良～令和から未来へ～」

古都奈良をもっと楽しんでもらいたい」と天平衣装を活用して奈良の良さを紹介する事業をされている加藤さんは、この日も光明皇后様の衣装で講演。奈良の歴史をわかりやすく楽しく話しながら、仏様の教えや生き方まで。

最後には被災地へ思いを寄せつつ皆で「あおによし」と「花は咲く」を歌いましたが、加藤さんの優しい歌声が心に沁みました。



あせび会総会が開けるのは母校で事務職員として勤務するあせび会役員のはたらきが大きく、同窓会を大切に思い見守り時には助言を下さる学長や事務局長。そして同窓会のことを理解してくださる短大皆様のお陰です。

今後はもっと若い世代へも同窓会の輪が広がるよう望んでいるところですが、年齢層が広く価値観や常識も違う同窓生が一つの輪になるのは大変難しいことです。

秋に日本中を沸かせたラグビー。日本がアイルランドに勝った後の選手のインタビューで「死ぬほど努力したから『奇跡』ではなく『必然』」の言葉がありました。

あせび会も、役員を核に智恵を出し合い、同じ学び舎を巣立った同窓生が互いを思いやりつつ努力すれば叶う気がします。

「令和」は「日本の式折々の文化と自然をこれからの世代に引き継ぎていきたい」という思いが込められているようですが、あせび会も同じく、女学院の方々の思いも大切にしながら若い世代の声も聞き、これからの世代に引き継ぎたいものです。

今後共どうぞよろしくお願いたします。



2019年度 奈良佐保の取り組み

4月	2日	入学式
	8日	広報ボランティア：朝の挨拶運動 ～12日
5月	21日	第1回オープンキャンパス ピアノ無料講習会
	7日	広報ボランティア：朝の挨拶運動～10日
	13日	奈良県教育委員会・奈良県立榛生昇陽高等学校・奈良佐保短期大学 保育士養成に関する三者協定締結
	16日	公務員対策講座 / 生活未来科 ミス・パリ・エステティック専門学校 講師授業
	18日	第2回オープンキャンパス 1人暮らしツアー
	23日	公務員対策講座 / 生活未来科 ミス・パリ・エステティック専門学校 講師授業
6月	30日	生活未来科基礎ゼミナール「避難所運営ゲームHUG」※奈良テレビで放送
	3日	学友会総会
	9日	公務員対策講座
	31日	生活福祉コース 授業参観・実習施設懇談会
	3日	広報ボランティア：朝の挨拶運動 ～7日
7月	9日	第3回オープンキャンパス
	10日	よしもお笑い漫才作家による授業（生活未来科）
	12日	図書館講座：きらきらよい子の遊び講座
	17日	よしもお笑い漫才作家による授業（生活未来科）
	27日	「レストラン鹿野園」リニューアルオープン
8月	2日	「花いっぱい運動」奈良佐保短期大学附属幼稚園へマリーゴールド苗をプレゼント
	3日	お仕事相談会
	6日	公務員試験対策講座
	7日	第4回オープンキャンパス ピアノ無料講習会 1人暮らしツアー
	8日	広報ボランティア：朝の挨拶運動 ～12日
	13日・14日	公務員試験対策講座
	15日	女子留学生日本語弁論奈良県大会 準優秀賞、審査員特別賞 受賞（生活福祉コース2名）
	20日	第5回オープンキャンパス
	21日	公務員試験対策講座
	28日	保育士特例講座
9月	3日	第6回オープンキャンパス ピアノ無料講習会 1人暮らしツアー
	4日	第1回公開講座「たのしく学ぼう！」算数
	6日	保育士特例講座
	6日	保育士特例講座
	8日	第2回公開講座「もしもの時のために、みんなで作ろう！防災食」
	8日	花いっぱい運動：広報ボランティア（マリーゴールドの苗を地域へ配布）
	9日	第3回公開講座「楽しく体を動かそう 体づくり運動」
	10日・11日	えほん展なら
	16日	学友会：東市・高円の杜夏祭り参加
	23日	大人のオープンキャンパス
10月	24日	第4回公開講座「親子クッキング～バランスの良い食事を知ろう～」
	30日	奈良県立磯城野高等学校ヒューマンライフ科 入浴体験実習
	2日	おもちゃドクターによるメディカルセミナー（地域こども学科）
	7日	体験型AO入試
	8日	第7回オープンキャンパス ピアノ無料講習会
	17日	第5回公開講座「イキイキと働くためのキャリア・デザイン」
	20日	大人のオープンキャンパス
	28日	第2回 地域防災避難訓練
	28日	第6回公開講座「実践！救命に必要な応急手当」
	7日	広報ボランティア：朝の挨拶運動 ～11日
11月	12日	体験型AO入試・面談型AO入試・課外活動評価入試（1期）
	7日	第7回公開講座 世界遺産「春日大社」
	19日	奈良県介護福祉会設立 20周年記念式典参加 / 生活福祉コース2回生 学生1名介護福祉士の主張・学生の即発表
	24日	よしもお笑い漫才作家による授業（地域こども学科）
	26日	奈良佐保短期大学大学祭「佐保祭」
	27日	えほんのひろば・としょかんdeカフェ・パネル展 ミニ・オープンキャンパス
12月	31日	よしもお笑い漫才作家による授業（地域こども学科）
	2日	第8回公開講座「山の辺の道 散策」
	3日	J Aならけんキッズクラブ「スイーツ料理教室+親子で食育体験」開催
	5日	放課後児童クラブ合同運動会参加（地域こども学科スポーツフィールド）
	5日	朝の挨拶運動：広報ボランティア ～8日
	16日	指定校推薦入試・公募制推薦入試（1期）・面談型AO入試・社会人入試・外国人留学生入試（国内）
	23日	福祉フェスタ（介護まなびカフェ） こどもフェスタ ミニ・オープンキャンパス
	25日	キャリアデザイン「人気の企業経営者に学ぶフロンティアになるための心得」
	28日	認知症サポート養成講座
	29日	大人のオープンキャンパス
1月	9日	朝の挨拶運動：広報ボランティア ～13日
	14日	公募制推薦入試（2期）・面談型AO入試・課外活動評価入試（2期）・社会人入試・外国人留学生入試（国内）
	15日	奈良県里親の会「冬のお楽しみ会」
	20日	生活福祉コース 事例研究発表会
	23日～25日	としょかんdeカフェ：Xmasバージョン
	25日	花いっぱい運動：広報ボランティア（葉ぼたんを地域へ配布）
2月	17日	おもちゃ作り講座（地域こども学科）
	18日	面談型AO入試・課外活動評価入試（3期）・社会人入試・外国人留学生入試（国内）
	25日	地域こども学科 成果発表会
	26日	生活福祉コース2回生 介護福祉士国家試験
	4日	お仕事相談会
3月	8日	生活未来科 成果報告会
	15日	オープンキャンパス特別編（次年度入試制度の説明、大学入試新制度の説明）
	22日	一般入試・面談型AO入試・社会人入試・外国人留学生入試（国内）
	1日	市民メディカルラリー参加（新型コロナウイルス感染防止のため中止）
	4日	奈良県立磯城野高等学校 フードデザイン科体験授業（新型コロナウイルス感染防止のため中止）
3月	9日	面談型AO入試・社会人入試・外国人留学生入試（国内）
	18日	卒業式（新型コロナウイルス感染防止のため科別で規模縮小して実施）・謝恩会（新型コロナウイルス感染防止のため中止）
	21日	第8回オープンキャンパス（新型コロナウイルス感染防止のため中止）

平成31年4月3日(水) 奈良新聞



夢実現を目指して

【佐保短大】夢を実現するために、多くの学生が努力を怠らな...
 佐保短期大学(佐保)の学生は、夢を実現するために、多くの学生が努力を怠らな...
 佐保短期大学(佐保)の学生は、夢を実現するために、多くの学生が努力を怠らな...

平成31年4月5日(金) 奈良日日

令和元年新社会人、新人生の第一歩

【佐保短大】令和元年新社会人、新人生の第一歩...
 佐保短期大学(佐保)の学生は、夢を実現するために、多くの学生が努力を怠らな...



新社会人として活躍する学生たち。前列は佐保短期大学。

令和元年5月14日(火) 奈良新聞

保育人材育成へ
高校・短大と連携

【奈良新聞】奈良県は14日、奈良佐保短期大学、私立生界...
 奈良県は14日、奈良佐保短期大学、私立生界...
 奈良県は14日、奈良佐保短期大学、私立生界...



協定に関する協定書...
 協定に関する協定書...
 協定に関する協定書...

令和元年5月24日(金) 奈良新聞

避難所運営を考える
模擬体験ゲーム「HUG」



【佐保短大】70人が挑戦...
 佐保短期大学(佐保)の学生は、夢を実現するために、多くの学生が努力を怠らな...

避難所運営ゲーム「HUG」...
 避難所運営ゲーム「HUG」...
 避難所運営ゲーム「HUG」...

令和元年5月26日(日) 読売新聞

避難所運営ゲームで学ぶ



【佐保短大】70人が挑戦...
 佐保短期大学(佐保)の学生は、夢を実現するために、多くの学生が努力を怠らな...

避難所運営ゲーム「HUG」...
 避難所運営ゲーム「HUG」...
 避難所運営ゲーム「HUG」...

令和元年7月3日(水) 奈良新聞

大切に育ててね



【佐保短大】70人が挑戦...
 佐保短期大学(佐保)の学生は、夢を実現するために、多くの学生が努力を怠らな...

大切に育ててね...
 大切に育ててね...
 大切に育ててね...

令和元年8月7日(水) 奈良新聞

算数を楽しく学ぼう



【佐保短大】70人が挑戦...
 佐保短期大学(佐保)の学生は、夢を実現するために、多くの学生が努力を怠らな...

算数を楽しく学ぼう...
 算数を楽しく学ぼう...
 算数を楽しく学ぼう...

令和元年9月3日(火) 奈良新聞

実習交え技術学ぶ



【佐保短大】70人が挑戦...
 佐保短期大学(佐保)の学生は、夢を実現するために、多くの学生が努力を怠らな...

実習交え技術学ぶ...
 実習交え技術学ぶ...
 実習交え技術学ぶ...

令和元年9月30日(月) 奈良新聞

避難所での行動確認



【佐保短大】70人が挑戦...
 佐保短期大学(佐保)の学生は、夢を実現するために、多くの学生が努力を怠らな...

避難所での行動確認...
 避難所での行動確認...
 避難所での行動確認...

令和元年10月28日(月) 奈良新聞



奈良佐保短期大学の学生が、10月28日(月)に開催された「奈良佐保短期大学でJAならけんギッズくらぶ」に参加し、食育体験を行った。

令和元年11月1日(月) 奈良新聞



奈良佐保短期大学でJAならけんギッズくらぶ。食育体験を通じて、食の大切さや食文化の大切さを学びました。

令和元年11月29日(金) 奈良新聞



奈良佐保短期大学で認知症サポーター養成講座。認知症の理解が助けに、地域社会の支え合いが大切だと学びました。

令和元年12月5日(木) 奈良新聞



奈良佐保短期大学で「食育体験」を実施。食の大切さや食文化の大切さを学びました。

令和元年12月7日(土) 奈良新聞



奈良佐保短期大学で「食育体験」を実施。食の大切さや食文化の大切さを学びました。

令和2年1月18日(土) 奈良新聞



奈良佐保短期大学で「食育体験」を実施。食の大切さや食文化の大切さを学びました。

令和2年1月26日(日) 奈良新聞



奈良佐保短期大学で「食育体験」を実施。食の大切さや食文化の大切さを学びました。

学びの振り返り達成感

佐保短期大学 70人が成果発表

奈良佐保短期大学で「食育体験」を実施。食の大切さや食文化の大切さを学びました。

令和2年2月18日(火) 奈良新聞



奈良佐保短期大学で「食育体験」を実施。食の大切さや食文化の大切さを学びました。

伝統野菜で郷土の味

奈良佐保短期大学で「食育体験」を実施。食の大切さや食文化の大切さを学びました。

奈良佐保短期大学で「食育体験」を実施。食の大切さや食文化の大切さを学びました。

2020年度入試（2021年度入学生対象）

入 試 種 別	
自主的活動評価入試	高等学校等における校内外での自主的な活動の実績を評価する入試です。
総合型選抜（体験）	就きたい専門職にかかわる授業を体験し、そこでの努力する姿勢や意欲、コミュニケーション能力を評価する入試です。
総合型選抜（面談）	希望資格や学びたい内容が本学の教育内容と一致しているかなどについて、志望学科の教員とじっくり話し合い、受験するかどうかも含めてともに考えていく入試です。
学校推薦型選抜（指定校）	本学が指定する高等学校長の推薦により、選考試験を実施する入試です。
学校推薦型選抜（公募）	1期 2期 高等学校長の推薦により、選考試験を実施する入試です。
一般選抜	学力試験及び面接試験により、合否を判定する入試です。
社会人入試	入学時に満20歳以上の人を対象とする入試です。
外国人留学生入試（国内居住者用）	日本在住の外国人を対象とする入試です。

2020年度 オープンキャンパス

日時

2020年4/19（日）
5/16（土）
6/7（日）
7/12（日）
8/22（土）
9/13（土）
2021年3/27（土）

いずれも
午前10：00から

場所 本 学

大人の

2020年度 オープンキャンパス

9/25（金）・11/20（金）・12/18（金）
18:00～20:00



オープンキャンパス

10/24（土）・25（日） 大学祭

☆予約不要

☆無料送迎あり

（9：30頃出発）

・JR奈良駅

・近鉄奈良駅

☆おいしいランチつき！

ウェブで申込みをされた方

にはさらにステキな

プレゼントあり！

奈良佐保短期大学

〒630-8566 奈良市鹿野園町806番地
TEL 0742-61-3858(代) FAX 0742-61-8054
E-mail info@narasaho-c.ac.jp
ウェブサイト <http://www.narasaho-c.ac.jp>